

2017/3/23

(日々雑感 57)



語らいの行脚の旅が続きます。

昨日は、1年前に頸腰の同時手術を執刀して下さった総合病院の名誉職院長で整形外科部長の先生と四方山話をしました。無論再診という形です。

「ちょっと全国的に知られる整形外科医になって偉ぶってやがる」と言う患者さんの話を時折聞くことがあります。ぼくにはそうは思えません。確かにがらっばちで声が大きく、しばしば患者さんを叱ったりもする「おっかない先生」かもしれませんが、少しも悪意を感じません。単に熱心すぎて、少しオーバーランしているだけのような気がするのです。

「偉ぶっている」という人に共通しているのは、日頃自分を一番上に置いていて、今まで自分より上からあれこれ言われたことのない自営業の患者さんに多いように見受けられます。昨日はその先生から医療行為以外のアドバイスを戴いたり、アドバイスの元になる自分の「家庭の事情」話までお伺いできて、とても「ほっと」しました。

「先生、医療事務の女性が脇で聞いているのに、そんなことまで話していいんですか？」

「良いですよ。隠したって仕方ないし、どうせみんな知ってるしね」

午後は、証券会社に足を運んで、昨今の北朝鮮情勢に於いて、韓国のフロントとしての役割崩壊とトランプ政権誕生による我が国の圧倒的地政学的リスクの高まりから、それを読んだ投資の方向付け切り替えとそれを切り替えるタイミングの話をしました。

投資はもう6年ほどやっているのですが、「自分のレベル」からするとネット証券でやった方が得なのは分かっているのですが、儲けることが唯一の目的ではないので、敢えてリアル世界の証券会社支店に足を運んでいるのです。そうして、ここでも四方山話をしました。相手は入社1年目の新人のお嬢さんです。

腕前はまだ全然で、むしろ投資技量的にはぼくの方が上だったりするのですが、悩みながらも必死に食らいついてくる「感じ」に、やはり何か「ほっと」する気分になれるのです。

「ええっ！そんな見方があるんですか？そんな話誰からも聞いたことがありません。なんだか、だんだん分からなくなってきました」

そのあからさまな困惑顔を目の当たりにすると、ちょっと言い過ぎたかな？悪かったか

な？と時々、反省したりもします。後で謝ったりもします。

方や全国的に著名な「名医」方やまだ右も左も分からない「ポッと出の新人」

しかし、感ずるところ、二人に共通しているのは「人柄」だと思っています。

以前の記事で天皇皇后両陛下を「お人柄のいいお方」だと書いて、ネトウヨだの失礼極まりないなどと「右から左から」さんざんに叩かれましたが、皆さんに共通するのはやはり「お人柄」だとしか言い様がないのです。話ながらあるいはテレビ映像で顔や「お顔」をみていると分かるのです。何とというか、一番上に自分を置いていないひと。自分より上に何かを置いて、あるいは自分よりまだ上に何かあるのを無意識に感じているひととでもいいでしょうか。

「ポッと出の新人」さんはともかく、両陛下にしろ、「名医」さんにしろ日本で一番有名乃至は全国的に著名にもかかわらず、自分より上に何か居るのを感じて「頭を下げている」のが見えるのです。それで「ほっと」するのかもしれませんが。それが表情や言葉にあらわれているのが見て取れるからです。

街を歩いているとそういう感じの人がだんだん少なくなってきているような気がしていたので、冷氣の中、所々ほっこりした「日だまり」にでもたどり着いたように「ほっと」した気分になったのかもしれませんが。